

地域別の現状と2040年に向けた将来展望

		尾張地域						将来展望 (推計人口：481万人(2040年))
		現状 (総人口：513万人(2015年))	関連指標等					
			名古屋	尾張北東部	尾張中西部・海部	知多		
県民生活	人口構造	高齢化率：2015年 (市区町村別の数値幅) 【県平均 23.8%】	・若い人口構造の市町と、 高齢者が多い市町村が混在 ・ 名古屋都心部 は、若い人口構造にも関わらず、 合計特殊出生率が低い	24.2% (20.8%～28.7%)	24.4% (15.5%～28.3%)	25.5% (21.1%～30.7%)	23.9% (21.1%～34.5%)	・高齢化率が30%未満の 若い市町 と、40%を超える 高齢者が多い市町村が混在 ・高齢化や人口減少により、担い手不足が深刻化
	職場住居の すみ分け	就従比：2015年 (0.80未満の市区町村数)	・ オフィス街や工場等 の職場が集積する市町村と、住宅地が集積する市町（ ベットタウン ）が 混在 ・大規模ニュータウンが複数存在	1.22 (0.80未満：4/16区)	0.90 (0.80未満：6/13市町)	0.81 (0.80未満：5/12市町村)	0.89 (0.80未満：5/10市町)	・ AI、ICT により、効率的で快適な 生活 や、時間や場所に縛られない 働き方 が実現 ・ リニア 開通で、 遠隔地への通勤 も可能になる
	医療・福祉	救命救急センター数：2019年	・大学病院や高機能病院が複数立地 ・ 保健・福祉・医療の専門機関や専門大学 も立地	7か所	6か所	3か所	1か所	・健康寿命が延伸し、 元気な高齢者 が職場や地域の 担い手として活躍 ・医療・介護需要は増大
	外国人	外国人人口比率：2018年 (市区町村別の数値幅) 【県平均 3.46%】	・ 外国人が多い地域がある ・多くの外国人は製造業に就業するが、 名古屋では、多様な職種に就業	3.65% (1.93%～11.23%)	3.11% (1.45%～6.48%)	2.22% (1.37%～7.66%)	2.57% (1.33%～3.52%)	・ 外国人の受入ノウハウが蓄積し、多文化共生 も浸透 ・経済成長を遂げた アジア地域との労働力獲得競争 が発生
産業経済	製造業	製造品出荷額等：2017年 〔輸送用機器の比率〕 【県平均 59.3%】	・沿岸部、内陸部ともに、製造業が盛んな市町村あり ・輸送用機器に偏らず、 多様な品目を製造	3.5兆円 (輸送用機器13.8%)	4.3兆円 (輸送用機器10.3%)	3.2兆円 (輸送用機器10.8%)	5.0兆円 (輸送用機器32.1%)	・ 第4次産業革命 による 高度なモノづくり技術 の利用が拡大 ・ 生産性の低い製造業の海外移転 が進む
	商業	小売吸引力指数：2016年 (1.00以上の市区町村数)	・ 名古屋都心部 に加え、 郊外 においても 買い物客が流入 する市町あり	1.34 (1.00以上：6/16区)	0.83 (1.00以上：2/13市町)	0.82 (1.00以上：3/12市町村)	0.79 (1.00以上：2/10市町)	・ アジアに富裕層を含む巨大マーケット が形成 ・ 名古屋への一極集中 が更に進み、多核連携構造の維持が困難化
	農林水産業	農業産出額：2017年 (県内シェア)	・ 尾張中西部・海部 や 知多 地域では 農業・水産業が盛ん ・農業就業者等の減少や高齢化が課題	30億円 (0.9%)	148億円 (4.6%)	391億円 (12.1%)	399億円 (12.3%)	・ 大規模農家の拡大 や、 スマート農業 の普及により、生産性が向上 ・ 農産物の輸入拡大 や、 世界の食料需要増加 も影響
	情報通信業	情報通信業GDP：2016年度 (県内シェア)	・ 名古屋には情報通信業が比較的集積 ・大学の情報系学部は存在するものの、 ベンチャー不毛の地 と言われる	1兆1,551億円 (78.5%)	610億円 (4.1%)	412億円 (2.8%)	326億円 (2.2%)	・ 高速・大容量のデータ通信技術 が進展 ・ IT分野などの世界的な高度人材の獲得競争 が激化
県土基盤	交通	新幹線駅 空港 港湾 主な広域幹線道路	・名古屋駅を中心とした鉄道網、空港、港湾、広域道路網といったインフラが充実しており、 国内外と人流・物流の基盤が繋がっている	名古屋駅 県営名古屋空港 名古屋港 名二環、伊勢湾岸道など	— 県営名古屋空港 — 東名、名神、中央道など	— 県営名古屋空港 名古屋港 名神、東海北陸道など	— 中部国際空港 名古屋港、衣浦港 知多半島道路など	・ リニア開通 や 広域道路網の充実 等により、物流・人流の基盤が更に整備 ・ 2037年までリニアの終着駅 となる効果享受
	観光資源	年間利用者150万人以上の施設数(公表分のみ)：2018年 (主な施設名)	・歴史文化・スポーツ・公園など、 多様な観光資源 が存在 ・ 観光客数が多い施設は、名古屋に集中	7施設 〔・熱田神宮〕 〔・ナゴヤドーム など〕	2施設 〔・愛・地球博記念公園〕 〔・成田山名古屋別院〕	1施設 〔・国営木曾三川公園〕 〔138タワーパーク〕	1施設 〔・中部国際空港来場者〕	・ 訪日外国人が増加 ・コンテンツツーリズムなど 多様な観光 が普及 ・ リニア開通 で、 首都圏や関西圏からの観光客 が増加
	災害	津波浸水想定における浸水域	・名古屋・海部地域には 国内最大のゼロメートル地帯 が存在 ・尾張北東部には、 基幹災害拠点病院 が立地	あり	なし	あり	あり	・ 南海トラフ地震 の発生リスクが上昇 ・気候変動に伴い、 災害が激甚化
	環境・エネルギー	生態系ネットワーク協議会 (協議会名)	・各地域で、大学、NPO、企業、行政などが参画する 環境保全の取組 を実施 ・知多半島周辺に 火力発電所 が多数立地	あり (東部丘陵、尾張西部)	あり (東部丘陵、尾張北部)	あり (尾張西部)	あり (知多半島)	・ 再生可能エネルギー が主力電源に近づく ・分散型エネルギーシステムへの移行が進む ・ SDGs の理念が世界中に浸透
広域連携	広域連合 (主に処理する業務)	・知多北部では、広域連合を設置し、介護保険関係事務を広域的に実施	—	—	—	知多北部広域連合 (介護保険関係)	・人口減少に伴い、 フルセットの行政サービスが困難 となる 自治体 が現れ、更なる広域連携の検討が必要となる	

		西三河地域			東三河地域			
		現状 (総人口：159万人(2015年))	関連指標等	将来展望 (推計人口：160万人(2040年))	現状 (総人口：76万人(2015年))	関連指標等	将来展望 (推計人口：66万人(2040年))	
県民生活	人口構造	高齢化率：2015年 (市区町村別の数値幅) 【県平均 23.8%】	・県内地域で 最も若い 人口構造 ・合計特殊出生率も比較的高い ・ 子育て世代が流出	20.8% (16.9%～24.0%)	・ 総人口 は現状の水準を維持 ・ 高齢化率 は約30%に上昇 ・山村地域では集落機能が弱体化	・県内地域で 最も高齢化率が高く、人口減少 が既に始まっている (特に山間部で顕著)	25.7% (24.1%～48.8%)	・ 地域の全市町村で高齢化と人口減少 が進み、担い手不足が深刻化 ・山間部では人口減少と高齢化が一層進行
	職場住居のすみ分け	就従比：2015年 (0.80未満の市区町村数)	・ 職場と住宅地の双方 を有する市町が多い ・他地域からも 就業者が流入	1.04 (0.80未満：1/10市町)	・AI、ICTにより、効率的で快適な生活や時間や場所に縛られない 働き方 が実現	・ 職場と住宅地の双方 を有する市町村が多い ・ 半島部や山間部では就業者が流入	0.95 (0.80未満：0/8市町村)	・AI、ICTにより、効率的で快適な生活や時間や場所に縛られない 働き方 が実現
	医療・福祉	救命救急センター数：2019年	・ 平野部には高機能病院 が複数立地 ・ 山間部には無医地区あり	5か所	・健康寿命が延伸し、 元気な高齢者 が職場や地域の担い手として活躍 ・医療・介護需要は増大	・ 平野部には高機能病院 が立地 ・ 北部山間部には無医地区 があり、オンライン診療・服薬指導を実施	2か所	・健康寿命が延伸し、 元気な高齢者 が職場や地域の担い手として活躍 ・南部の医療・介護需要は増大(北部は減)
	外国人	外国人人口比率：2018年 (市区町村別の数値幅) 【県平均 3.46%】	・ 外国人が多い地域 で、特に南部で多い ・多くの外国人は、 製造業に就業	4.33% (3.10%～7.83%)	・ 外国人の受入ノウハウ が蓄積し、 多文化共生 の取組も浸透 ・ アジア地域との労働力獲得競争 が発生	・ 南部では外国人が多く 、山間部では少ない ・多くの外国人は、 製造業に就業	3.98% (0.76%～4.76%)	・ 外国人の受入ノウハウ が蓄積し、 多文化共生 の取組も浸透 ・ アジア地域との労働力獲得競争 が発生
産業経済	製造業	製造品出荷額等：2017年 (輸送用機器の比率) 【県平均 59.3%】	・ 自動車製造業が圧倒的に盛ん ・グローバル企業のマザー工場も立地	26.2兆円 (輸送用機器81.3%)	・ 第4次産業革命 で高度技術が利用拡大 ・ 製造業の海外移転や電動化 による産業構造変化	・山間部以外では、 製造業が盛ん ・ 自動車製造業の占める割合 が大きい	4.8兆円 (輸送用機器59.2%)	・ 第4次産業革命 で高度技術が利用拡大 ・ 製造業の海外移転や電動化 による産業構造変化が発生
	商業	小売吸引力指数：2016年 (1.00以上の市区町村数)	・ 買い物客が流入する地域は限定的 (中核市2市では買い物客が流出)	0.88 (1.00以上：2/10市町)	・ 名古屋への一極集中 が更に進み、多核連携構造の維持が困難化。	・地域の全市町村で 買い物客が流出	0.90 (1.00以上：0/8市町村)	・ 名古屋への一極集中 が更に進み、多核連携構造の維持が困難化
	農林水産業	農業産出額：2017年 (県内シェア)	・南部では、 農業・水産業が盛ん ・山間部には 林業 あり ・就業者は減少・高齢化している	563億円 (17.4%)	・ 大規模農家の拡大 や、 スマート農業・林業 の普及により、生産性が向上 ・ 農産物の輸入拡大 等による影響	・ 県内随一の農業地域 ・ 林業・水産業 も盛ん ・就業者は減少・高齢化している	1,688億円 (52.2%)	・ 大規模農家の拡大 や、 スマート農業・林業 の普及により、生産性が向上 ・ 農産物の輸入拡大 等による影響
	情報通信業	情報通信業GDP：2016年度 (県内シェア)	・ 情報通信業 のGDPは県内地域で2番目だが、 多いとは言えない	1,502億円 (10.2%)	・ 高速・大容量のデータ通信技術 が進展 ・IT分野などの 世界的な高度人材の獲得競争 が激化	・ 情報通信業のGDP は県内地域で最少	312億円 (2.1%)	・ 高速・大容量のデータ通信技術 が進展 ・IT分野などの 世界的な高度人材の獲得競争 が激化
県土基盤	交通	新幹線駅 空港 港湾 主な広域幹線道路	・充実した 広域道路網 や、 港湾、新幹線 駅が存在 ・ 豊田市駅から名古屋駅 へのアクセスが 40分を超える	三河安城駅 — 衣浦港 東名、新東名など	・ 東海道新幹線の利便性向上 や 広域道路網 等の更なる充実 ・ 自動運転やMaaS 等が進展し、地域の公共交通を補完	・ 広域道路網 や、 港湾、新幹線 駅が存在 ・半島先端部への自動車専用道路がない ・三河港から高速道路へのアクセスに30分を要する。	豊橋駅 — 三河港 東名、新東名など	・ 東海道新幹線の利便性向上 や 広域道路網 等の充実 ・ 自動運転やMaaS 等が進展し、地域の公共交通を補完
	観光資源	年間利用者150万人以上の施設数(公表分のみ)：2018年 (主な施設名)	・歴史・文化、産業、自然といった 観光資源が存在 ・ 観光客数は伸び悩んでいる	3施設 (刈谷ハイツアリス ・NEOPASA岡崎 など)	・ 訪日外国人が増加 ・コンテンツツーリズムなど 多様な観光 が普及	・歴史・文化、自然といった 観光資源が存在 ・ 観光客数は伸び悩んでいる。	2施設 (豊川稲荷 ・ラグーナテンボス)	・ 訪日外国人が増加 ・コンテンツツーリズムなど 多様な観光 が普及
	災害	津波浸水想定における浸水域	・沿岸部に ゼロメートル地帯 が存在	あり	・ 南海トラフ地震 の発生リスクが上昇 ・気候変動に伴い、 災害が激甚化	・沿岸部などに ゼロメートル地帯 が存在	あり	・ 南海トラフ地震 の発生リスクが上昇 ・気候変動に伴い、 災害が激甚化
	環境・エネルギー	生態系ネットワーク協議会 (協議会名)	・大学、NPO、企業、行政などが参画する 環境保全の取組 を実施 ・農業用水を利用した 小水力発電 がある	あり (東部丘陵、西三河 西三河南部)	・ 再生可能エネルギー が主力電源に近づく ・分散型エネルギーシステムへの移行 ・ SDGs の理念が世界中に浸透	・大学、NPO、企業、行政などが参画する 環境保全の取組 を実施 ・渥美半島には 風力発電所 がある	あり (新城設楽、東三河 渥美半島)	・ 再生可能エネルギー が主力電源に近づく ・分散型エネルギーシステムへの移行 ・ SDGs の理念が世界中に浸透。
広域連携	広域連合 (主に処理する業務)	・衣浦東部では、広域連合を設置し、消防関係事務を広域的に実施	衣浦東部広域連合 (消防関係)	・三河地域新幹線駅利用促進期成同盟会の設立(2019.5)を契機に、 三河地域の自治体・経済界が一丸となった取組 が進展	・ 地域の全市町村が参画 する広域連合において、 様々な事務・事業を広域的に実施	東三河広域連合 (介護保険、消費生活、調査研究など)	・人口減少に伴い、 フルセットの行政サービスが困難となる自治体 が現れ、更なる広域連携の検討が必要となる	

500m メッシュ別総人口の増減率（2015 年→2040 年）

